

活動報告

〈活動報告〉

オンライン国際学生カンファレンスの開催

本稿では教育学学位プログラムの2020年度の国際交流に関する活動について報告する。

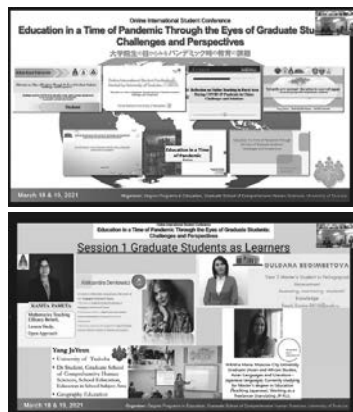
2021年3月18日～19日に教育学学位プログラム主催、CRICEDの後援でオンライン国際学生カンファレンスが開催された。本カンファレンスの開催に至った経緯は以下の通りである。

教育学学位プログラムの前組織（教育学専攻、教育基礎学専攻、学校教育専攻、ヒューマン科学専攻共生教育学分野）は2017年度～2019年度に渡り、人間総合科学研究科（2020年度以降、人間総合科学学術院）の「教育戦略推進プロジェクト支援事業」の一環として大学院生の国際実習を実施してきた。国際実習では、上述の教育学関連3専攻1分野に在籍する大学院生たちが本学の海外交流協定校がある諸外国に2月～3月の間に渡航し7日～10日間滞在する。実習の目的は、各国の教育制度・政策について学び、先方の学生たちと交流し、研究ネットワークを形成することである。そのために実習の際に滞在先の諸教育機関（幼稚園、小中高校、大学、専門学校、学校外教育施設など）を訪問し、授業参観し、児童生徒・教職員との交流を深め、受入大学では学生とのラウンドテーブルにおいて英語で研究発表する。これまでの実習先はカザフ国立教育大学（カザフスタン）、タシケント国立東洋学大学（ウズベキスタン）、モスクワ市立教育大学（ロシア）である。なお、2020年2月28日～3月7日にはカザフ国立教育大学とモスクワ市立教育大学からの院生5名が本学を訪問し、日本の教育制度・政策に関する研究セミナーに参加した。

2020年度には新型コロナウイルスの影響で海外渡航による国際実習の実施が困難になった。教育学学位プログラムでは2020年度の「教育戦略推進プロジェクト支援事業」を受け、英語によるオンライン（Zoom使用）国際学生カンファレンスを開催することにした。カンファレンスの目的は、様々な国の大学院生たちがパンデミック時とその後の教育に関する考えを共

有し、課題と展望についてディスカッションすることである。そのために、7つの大学に参加を呼び掛けた。それらは、東北師範大学（中国）、韓国教員大学校（韓国）、コンケン大学（タイ）、カンタベリー大学（ニュージーランド）、カザフ国立教育大学（カザフスタン）、モスクワ市立教育大学（ロシア）、クラコフ教育大学（ポーランド）である。本学からは教育学学位プログラムの院生たちが参加した。

カンファレンスが3月18日～19日に渡り開催され、二日間の参加者数は300人を超えた。18日には各大学から院生3名が自国におけるコロナ禍の教育課題について発表したほかに、本学人間系の佐藤博志教授が日本の小中学校における対応について講演した。19日には四つのテーマ「学習者として」、「教育者として」、「研究者として」、「社会の一員として」の院生のコロナ禍で直面する課題とそれを乗り越える挑戦についてブレイクアウトルームでディスカッションをして、メインルームで共有し全体討論を行った。カンファレンス終了後に実施したアンケートの結果によると、参加者の8割強はカンファレンスに満足したことを確認できた。また、自由記述においてはカンファレンスの定期的開催を期待する声が多く寄せられた。教育学学位プログラムとしてはオンラインによる国際交流を今後も継続する予定である。



（文責：タスタンベコワ・クアニシ）

〈活動報告〉

中国華東師範大学との研究交流セミナーを開催

2020年の年初より広がった新型コロナウイルス感染症の影響により国内外の移動が制限され、教育学域での国際交流のプログラムもすべてが中止となった。2014年以來、ほぼ毎年のように相互訪問しながら研究交流を行ってきた華東師範大学との交流も中断していたが、両校の連携協力の推進に向けた関係を継続していきたいという一致した思いの中で、オンラインでの研究交流セミナーの開催が計画された。

当日は、華東師範大学の卒業式と重なる日程であったが、教育学部常務副主任荀淵教授、教育学部呉遵民教授をはじめ複数の教員から挨拶、コメントをいただいた。筑波大学からも教育学学位プログラム長の清水美憲教授、教育学域代表浜田博文教授、教育学類長樋口直宏教授に発言をしていただいた。また、これまでの取り組みでは主に大学院生による研究発表を中心に行ってきたが、オンラインで開催する今回は共通のテーマを掲げ、両校の教員による基調報告を加えて実施した。本学からは教育学学位プログラム教育基礎科学サブプログラム長藤田晃之教授が報告を行い、華東師範大学からは教育学部教育信息技术学系孫妍妍副教授が報告した。大学院生については、各自の研究テーマについて発表された。

プログラムの概要と発表者は下記のとおりである。

日時：2021年6月16日 10:00～16:30

会場：Zoom オンライン

発表言語：英語（日本語、中国語）

テーマ「未来の教育における発展と挑戦」

（午前）

開会

基調報告 藤田晃之教授

The Challenges and opportunities for the Japanese schools lagging behind in the age of digital technology: Can a post-pandemic rollback be accomplished?

吉川実希（教育学学位プログラム博士後期課程）

田邊怜（教育基礎科学サブプログラム）

馬好（華東師範大学博士課程）

沈王琦（華東師範大学修士課程）

（午後）

基調報告 孫妍妍副教授

Rethinking the role of technology in education for a post-pandemic future: challenges and opportunities

時慧（華東師範大学修士課程）

邱燕楠（華東師範大学修士課程）

沈鑫（教育学学位プログラム博士後期課程）

大倉百理子（国際教育サブプログラム）

閉会



コロナ禍において、オンラインでのコミュニケーションに慣れてきたこともあり、円滑に進めることができた。また活発な質疑応答や教員からのコメントもあり、充実した研究交流となった。これを機会に、今後も継続した連携を図っていくことが確認され、対面と遠隔のハイブリッドでの交流の可能性も示された。

今後は、こうしたICTの活用や翻訳技術の精度向上により、海外との物理的距離や言語的なハードルが一層低くなっていく。教育学域では、教員も学生も全方位的にグローバルな視点での研究交流の深化が重要であり、中国ともその一環として継続していくことが重要である。



（文責：上田孝典）